

# 令和4年度 町政懇談会を開催しました

令和4年度の町政懇談会は、幌延地区は2月8日の午後と夜間、問寒別地区は2月10日の午後と夜間の計2日間、4回開催し、38名の町民の方にご参加をいただきました。

町からは、令和9年度の開校を目指す「小中一貫教育」について、教育長が説明し、令和4年12月に策定した「幌延町空家等対策計画」と「幌延町災害廃棄物処理計画」について住民生活課長が説明しました。

参加者の皆さんからいただいたご意見、ご要望などについて、抜粋してご紹介します。

## ◆小中一貫教育について

小中一貫教育に向けた幌延町の取り組みについて説明しました。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

## Q 幌延の小学校と中学校を施設一体型の小中一貫校とすることだが、問寒別の学校はどうするのか。

A 今のところ幌延地区だけで、問寒別小中学校はそのままとする。

## Q 問寒別と幌延との格差は出ないのか。

A 委員会としては小さな学校も大切にしていきたい。今、幌延中学校と問寒別中

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

学校の英語の授業を、インターネットを使って一緒にやっている。

Aは一応小学校、中学校の代表の方となるが、組織は一つで一緒にやる。

## ◆幌延町空家等対策計画について

令和4年12月に策定した空家等対策計画について説明しました。

空家の中でも再利用できるものとは違うものがある。利用できるものは不動産屋さんなどに登録して、再利用も可能なのでは。

町でも空家バンク制度があり、全国的に発信しているが、不動産業者等を通すと更に広がる可能性はある。いろいろなご意見を参考にしながら検討していく。

壊したほうが良いという場合もある。その家の人がかどうしたいか白黒つけてもらって壊すことになるのだろうが、持ち主がわからないとそのままになる。

解体については、原則として所有者がやらなといけない。所有者への働きかけ、所有者が分からないものの調査など、様々なケースに対応できるように調査を進めている。

深地層の研究について、その後のことは何か考えているのか。

研究を実施する原子力機構においては、現在「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」に沿って令和10年度を期限に技術基盤の整備完了に向けた研究開発を進めている。我々としては引き続き有意義な研究成果を出していただけるよう支援していく。

A 解体については、原則として所有者がやらなといけない。所有者への働きかけ、所有者が分からないものの調査など、様々なケースに対応できるように調査を進めている。

## ◆町政全般について

深地層の研究について、その後のことは何か考えているのか。

研究を実施する原子力機構においては、現在「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」に沿って令和10年度を期限に技術基盤の整備完了に向けた研究開発を進めている。我々としては引き続き有意義な研究成果を出していただけるよう支援していく。

深地層の研究施設の見学に行ったことがあるが、やはり放射能を入れてやらなくては、本来の研究施設にはならないのではないか。地下も地下水がかなりあって、本当に研究の成果が出

ているのか非常に疑問だ。

幌延深地層研究計画については、放射性廃棄物を持ち込むことや使用することとはしないこと等を定めた協定（三者協定）遵守のもと、地層処分における技術基盤の整備において有意義な研究成果が得られている。放射性廃棄物等を用いた研究については、茨城県東海村にある原子力機構の施設において行われており、幌延と東海の研究施設において、それぞれの役割のもと研究開発が進められている。

